



つながりを力に

農地を広げます。

Q 始めたきっかけについてお聞かせください。

A 景観と少し田舎っぽさが残った環境がとても気に入り、17年前に豊中市から現在の箕面市新稲地区に移り住みました。周りには田畑も多く残っており、野菜づくりに興味を持ちました。自宅隣の農地がたまたま貸し農園となり、当時はサラリーマンでしたが、趣味としてそこを借りたのがそもその始まりでした。趣味が高じていずれ農業をやってみたいと思うようになり、早期退職し、農業知識や人とのつながりを増やそうとの思いから農業公社で数ヶ月の実務体験や農大プロ農家育成短期研修を受講して知識や経験を積み、現在の圃場を取得し、就農しました。現在は農業関係の仕事をしながら、日々農作業を行っています。

Q 生産のこだわりについて

A 消費者のニーズに応えられるよう有機農法を取り入れています。糠や鶏糞などの有機肥料を

使用し、できるだけシンプルにするよう心掛けています。また多品目にもこだわっています。その中でこの12月には、なにわ伝統野菜の一つである「難波葱」を収穫・出荷できるよう栽培中です。この地域では非常に珍しい品種です。種さえ手に入れることがなかなかできませんでした。他にも「あまはづき」という新しい品種のサツマイモの栽培も行っています。珍しい品種を栽培し、消費者の方を飽きさせない工夫もこだわりの一つです。

Q 苦労していること・嬉しかったことはありますか。

A 獣害に特に苦労しています。鹿がよく作物を狙いに現れます。長年の遊休地を開墾したので、縄張りとしていたのかもしれない。柵をつけて対策していますが、その柵も山から吹き込む風で倒れてしまうことが度々あります。嬉しいことは消費者の方はもちろん、同業者や地域の人々などのたくさんの方とつながることが出来ていることです。

主な栽培品目

茎ブロッコリー
スナップエンドウ・ケール
にんじん・じゃがいも 他

芋づるも
ほく彩館で
人気です!



難波葱

そのつながりを大切に私の圃場では農作業の体験も行っています。大々的に募集はしていませんが、たくさんの方に体験していただいています。その体験を通じて農業に関心を持っていただけることも喜びです。そして、そのような方にゆくゆくは地域の農業を支えていてもらいたいです。

Q これからの目標や夢をお聞かせください。

A 今までたくさんの人と出会ってきました。その出会い・つながりを大切にしながら、チームを作って新稲地区の農地を広げていくことが大きな目標です。そのために法人化することも考えています。お客様にはこれからも美味しく、安心な野菜を食べていただきたいです。

1月頃より
ほく彩館で販売予定!

難波葱

日本の葱のルーツとも言われている難波葱は、強いぬめりが特長。加熱すると辛み成分が甘みに変わり、食感もとろっと柔らかくなります。西川さんオススメの食べ方は甘みを活かした「お鍋」!是非ほく彩館でご購入ください。

